

クイックカット

再使用禁止

【禁忌・禁止】

再使用禁止

<適用対象(患者)>

下記の症状が確認された患者には使用しないこと。[組織が損傷して出血する恐れがある。また、感染が広がる恐れがある。]

- ① 血液凝固異常
- ② 感染症

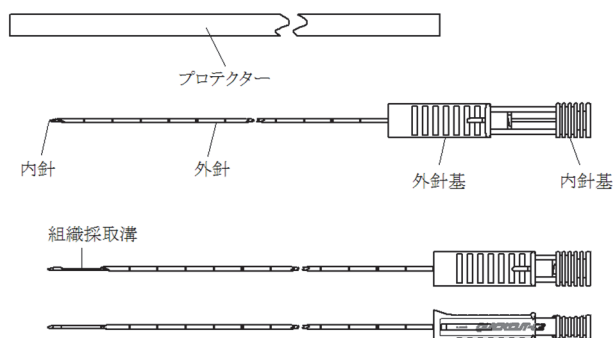
<使用方法>

肺に使用しないこと。
[空気塞栓を合併し、脳梗塞や心筋虚血に至る恐れがある。]

【形状・構造及び原理等】

- * 本品は、生検標本を採取するために用いる。

<構造図(代表図)>



外針基カラーコード	
規格 G サイズ	外針基カラー
14G	グリーン
15G	ブルー
16G	ホワイト
17G	バイオレット
18G	ピンク

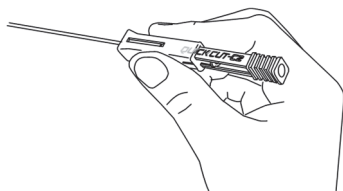
針管(外針及び内針): ステンレス鋼(ニッケル・クロム含有)

【使用目的又は効果】

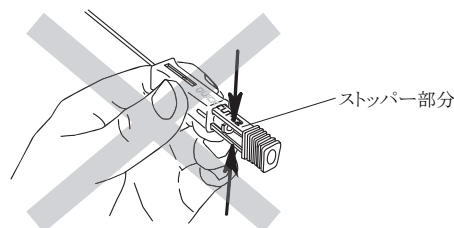
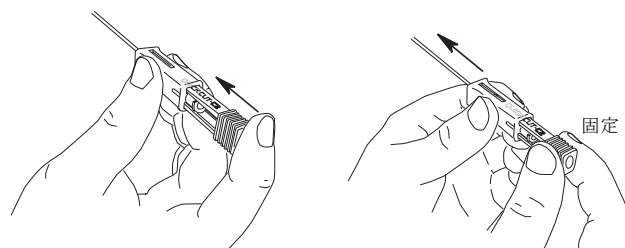
- * 一般医療機器に於いて周知されている。本品はディスプレイ製品であるのでそのまま直ちに使用できる。

【使用方法等】

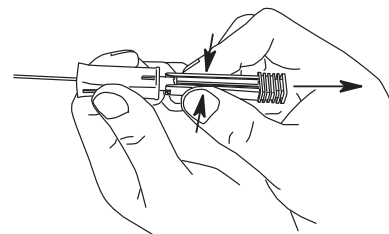
- 1) 超音波映像下で穿刺ルート及び刺入部を確認する。
- 2) 刺入部周辺の皮膚を消毒する。
- 3) 局所麻酔を行う。
- 4) 消毒済みの探触子にて穿刺目標と穿刺ルートを再度確認する。
- 5) 刺入部に小切開を加えた後、探触子の穿刺孔(穿刺アダプター)を通して、皮膚に刺入する。



- 6) 目標部が最も鮮明に描出される位置で呼吸を停止させ、刃先エコーを観察しながら目標部の手前まで刺入する。
- 7) 内針を前進させ、次に外針をすばやく進める。この時、内針基を固定して外針を進めること。なお、外針を進める際は、内針基のストッパー部分を把持しないこと。



1. 止血操作を行わない場合
- 8) 生検針を抜去して呼吸停止を解除する。
- 9) 内針を抜去して標本を採取する。内針を抜去する際は、内針基のストッパーを下図のように解除してから引き抜く。



2. 止血操作を行う場合
- 8) 内針を抜去して標本を採取する。
- 9) 外針を通して止血剤を注入する。
- 10) 必要に応じて再び内針を外針に挿入して止血剤を充填する。
- 11) 生検針を抜去して呼吸停止を解除する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 使用の際は、汚染に十分注意すること。
- 2) 使用前に、内針と外針が相互に滑らかに動くことを確認し、異常を感じた場合は使用しないこと。
[組織が採取できない可能性がある。]
- 3) 生検操作中、外針を進める際は、内針基のストッパー部分を把持しないこと。
[内針基のストッパーが外れ、外針が進み過ぎる恐れがある。]
- 4) 穿刺の際には、刺入ルートを慎重に確認し、血管穿刺等に十分に注意すること。
[血管損傷等に繋がる恐れがあるため。]
- 5) 圧迫止血等の術後処置や管理を十分に行うこと。
[出血が持続する恐れがあるため。]
- 6) 再穿刺が必要な際は、新しい針を使用すること。
[悪性細胞の播種等の恐れがある。]

【使用上の注意】**<重要な基本的注意>**

プロテクターをリキャップする必要がある場合には、誤刺に注意すること。

<不具合・有害事象>

手技に伴い、一般的な不具合や有害事象が発生する恐れがある。有害事象が発生した場合は術者の知見に基づき、適切な処置を行うこと。

- 1) その他の不具合
 - ① 本品破損
 - ② 摺動不良
- 2) 重大な有害事象
 - ① 感染
 - ② 空気塞栓
 - ③ 悪性細胞の播種
- 3) その他の有害事象
 - ① アレルギー反応
 - ② 組織損傷
 - ③ 臓器損傷
 - ④ 出血
 - ⑤ 疼痛
 - ⑥ 血腫
 - ⑦ ショック、除脈

【保管方法及び有効期間等】**<保管方法>**

水ぬれ、直射日光、高温多湿を避け保管すること。

<有効期間>

箱に記載している使用期限を参照のこと。(自己認証による)

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**<製造販売業者>**

株式会社八光
TEL 026-275-0121

<製造業者>

株式会社八光

販売窓口:

東京都文京区本郷三丁目 42-6
TEL 03-5804-8500